

日高さんが属しているハドソン研究所のロンドン所長が、土曜日のTV「文珍のウェークアップ」に登場、「日本はこれから甦る。このことを日本の皆さんはもっと信じてほしい!」と語りました。小泉支援に懸命なブッシュのブレーンとしての発言と受け止めるべきでしょう。日高さんが取材する各方面の見方は違う。「日本経済はまだ底を打っていない」と、まだまだ厳しい。

- \* 「日本経済の見通しは予測しにくい。が、坂道を下り続けるように悪くなり、縮小し続けることは間違いない」(ホワイトハウスの経済専門家)。「3月末、日本株が持ち直したことは驚きだった。が、誰が仕掛けたものか調べる気にもならない。我々の予測では4月以降、ゆっくりとではあるが景気は悪化し、日本株は安くなる」(ウォール街アナリスト)。
- \* 小泉政権は今後どうするのか? 銀行に公金を投入し不良債権を一掃する。公金を投入せずゼネコン等の倒産を放置する。政権を投げ出す。この3つのシナリオを描くなかで、政治的にも経済的にも完全に行き詰まり、その結果、失業、倒産、デフレが、酷くなり、株、国債が安くなるという状況に歯止めが効かなくなると観ている。
- \* 以上のように日本経済については概して厳しい見方だ。為替はどうか? 「160円になるかも」が、私の予測だったが、その後の動きから「ここ1~2カ月は130円前後で推移し、円安に向かうとしても140円止まり」というのが今の感触だ。日本では日銀券が多く刷られ、インフレ期待から円安を望む声が出ているが、それは難しい。
- \* 140円で止まる理由は、ドルが予想以上に安くなり始めたから。6月以降、ドル安が世界的にはっきりしてくる。米国の資本家が用心深く動いており、米株の値上がりは今ひとつで、日本円はあまり米国にシフトしないと思われるから。中国は今後、政治的、経済的に混乱するものとみられ日本円を中国に投資する動きが弱くなるから。
- \* 日本から帰ったブッシュはスタッフにこう述べた「日本は今や小泉しかいない。古い勢力はいずれ一掃されるだろう。これが対日政策の基本的な姿勢だ。また、前述のロンドン所長の印象も「あの楽観的な考え方とたいへんな自信。小泉は鉄の男だ。簡単に政権は投げ出さない」だった。ホワイトハウスの小泉・長期政権願望は根強い。
- \* 他方、日本に対する懸念も強くある。それは行政機関と金融機関に大きな問題点があることだ。「官僚による規制が依然として強い」が、その最たるものだろう。が、国民は長い間そういう中で暮らしてきた。それ故に、何が規制で何が自由か、根本的なことが分からなくなっている。その意味で、もっと抜本的な社会の変革が必要なのだ。
- \* 例えば、来るべき高齢少子化時代、それに対応して、75才まで働けるようにシステムを改善する必要がある。税についてもそうだ。西欧の「税」は支配者と国民の壮絶な戦いから生まれたもの。「税金については、全部国家任せ」の日本は、このIT、国際化時代に通用しない。日本が甦るにはすべての仕組みを変えねばならないと思う。
- \* 第四次大戦が始まった。第三次は「米ソ冷戦」だ。朝鮮戦争、ベトナム戦争を挟んでこの50年間、熾烈な戦いが繰り広げられてきた。この時、日本人は蚊帳の外だった。が、全く関係なかったとは言えない。共産黨員、ベ平連の人たちは米国への入国を拒否されたからだ。国と国ではなく、イデオロギーや人の心を引き裂いた戦争だった。
- \* 今回の大戦はイスラム過激派と西欧文明の戦いとなる。当面は米国によるテロ支援国家のイラク攻撃だろう。「フランスや国民が反米化しているサウジが慎重ならば、米国単独でもやる!」がブッシュの構えだ。米国世論の80%が、「9.11テロの背後にいるイラクを叩け」だからだ。もし、弱腰になればとたんに政権が維持できなくなる。
- \* 今、世界の経済は米国によって動かされている。その経済は住宅、エネルギー、先端産業中心に上向いている。その力は今や「軍事、政治」よりも遥かに大きい。ともあれこの戦争は30年かかるかもしれない。過去、大戦が終焉した時、世界は新しくなった。同様に、今度の戦争が終わった時、どういう新しい世界が作り出されるのか?! 「小泉の後に小泉なし」が常識ですが、俄かに石原都知事が脚光を浴びだしました。テレビでは「言われているうちが花だよ」と否定的ですが、中曽根、野中、亀井、鳩山、小沢といった連中を巻き込む動きがあり、そのダイナミズムは日本の沈没を防いでくれるのでは?(4.23・石井拝)